

## Connected Reporting とは

企業の外部報告は、単なる財務状況の報告から、企業の経営方針や取り組みに関する情報を含む、総合的な情報源となりつつあります。それに伴い、ガバナンスや環境、社会に関する非財務情報の一部が開示情報に含まれるようになっていきます。一方、CSR 報告書に代表される、サステナビリティに関する報告書の発行も年々積極的にされるようになったため、サステナビリティ情報は二つの別々の媒体で開示されているという状況になっています。

Connected Reporting は、これまで CSR 報告書などで開示されていた情報を、財務情報との関連付けを明確にしながら、企業の意思決定や経営方針に関わるものとして位置付け、投資家向けの外部報告の主媒体である年次報告書(英国においては Annual Report and Accounts)に含めることを目的とした報告の考え方です。ただし、ただ単に CSR 報告書と年次報告書を一つの報告書にまとめるということではなく、投資家の意思決定の観点から特に重要性の高いサステナビリティ課題に対応する KPI について財務実績と関連付けて開示することが意図されています。

さらに、企業の経営戦略と目標、業界や企業を取り巻く市場や社会の状況、それらに伴うリスクや機会、依存する資源や取引関係など、多角的な情報を掲載するとともに、経営戦略と財務的、非財務的パフォーマンスの関係についての分析を開示することにより、投資家だけでなく、経営者に対しても総合的かつ長期的な企業のビジョンを提供することを目的としています。

KPMG Japan ホームページ

Connected Reporting ～財務情報・非財務情報の統合報告～より

<http://www.kpmg.or.jp/resources/newsletter/sustainability/200912/02.html>